

## 第3回文京区都市マスタープラン見直し検討協議会 議事録(要旨)

1 日 時 令和5年1月17日(火) 18時30分から20時00分まで

2 場 所 文京区シビックセンター24階 区議会第1委員会室

3 出席者 【委員】21名(内2名欠席)

村木会長(学識経験者)

谷口副会長(学識経験者)

加藤委員(学識経験者) ※欠席

西浦委員(学識経験者) ※書面出席

村山委員(学識経験者)

綾井委員(区民(団体推薦))

新井委員(区民(団体推薦))

小能委員(区民(団体推薦)) ※欠席

杉田委員(区民(団体推薦))

吉岡委員(区民(団体推薦))

一針委員(区民(公募))

鈴木委員(区民(公募))

高橋委員(区民(公募))

福富委員(区民(公募))

福本委員(区民(公募))

大川委員(区職員)

竹田委員(区職員)

高橋委員(区職員)

澤井委員(区職員)

吉田委員(区職員)

鵜沼委員(区職員)

### 【事務局】

文京区都市計画部都市計画課 下笠課長

文京区都市計画部地域整備課 前田課長

文京区都市計画部住環境課 有坂課長

文京区都市計画部建築指導課 川西課長

【傍聴者】 7名

#### 4 次 第

- (1) 開会
- (2) 議題 「都市マスタープラン構成について」  
「部門別方針の見直しについて」
- (3) その他
- (4) 閉会

#### 5 議 事

- (1) 議題「都市マスタープラン構成について」
- (2) 議題「部門別方針の見直しについて」
  - ・事務局より資料1～4、参考資料及び今後のスケジュールについて説明

**○村木会長** 議論に入る前に、書面でご意見をいただいている委員がいれば、事務局は代読してほしい。

**○下笠事務局** 西浦委員より事前にご意見をいただいている。まず、資料2について、現行都市マス（以下「都市マス」という。）には、拠点の定義が見当たらないため、位置付けの根拠を明確にしてはどうか。特に生活拠点の位置付けは重要であると考えている。

この件について、区の見解としては、見直し検討協議会の資料には記載していないが、現行都市マスの24ページに定義を示している。

次に、資料3について、2ページの「現行土地利用方針図（用途別区分）」と拠点の連携が明確でないように感じる。2点目に、6ページの緑と水のまちづくり方針の構成概要3）の「緑と水のネットワーク軸の形成」については、具体的な内容に即したタイトルにしてはどうか。1）に「公園・庭園」と具体的な施設名が示されているように、3）でも「沿道・緑地帯」等の具体的な施設名が入れられると良い。3点目に、8ページの住宅・住環境形成の方針の構成概要4）「賑わいのある商店街の形成」については、生活拠点と連動すると思われるが、その部分の関連性があまり見えない。

この件について、区の見解としては、まず、現行都市マスの28ページでは、拠点5カ所を拠点商業地と位置付け、連携を図っている。2点目の「緑と水のネットワーク軸の形成」の記載方法は今後検討したい。3点目の「賑わいのある商店街の形成」については、現行都市

マスに住宅・住環境形成の方針において「拠点商業地については地域拠点や生活拠点としての商業機能やサービス機能を誘導し、周辺の駅や緑と水のネットワーク軸等と結び、良好な景観形成や快適で楽しく移動できるまち歩きのための環境整備に努める。」と示しており、記載の見直しは、今後、関係部署と協議をしながら検討したい。

最後に、その他のご意見について、拠点と土地利用、住宅、景観、防災等の部門が連動して見えるように整理してはどうか。

この件について、区の見解としては、今後、まちづくりを進めていく上で拠点到位置付ける有効性等を検証するとともに、当協議会でのご意見を踏まえ、継承するか見直すかも含めて検討したい。以上である。

**○村木会長** 今の西浦委員のご意見等も踏まえ、始めに、議題1の都市マスタープラン構成について、ご意見をお願いしたい。

**○福富委員** 一般的に、都市マスは都市施設や用途地域等、都市計画的な事項だけを使って説明しようとする。現在の章立てを変えた方が良いというわけではないが、前段に文化や歴史、学術等について記載し、都市計画の検討に至る目的や概念を整理すると、文京区の特徴が分かりやすくなるのではないか。

**○下笠事務局** その通りであるが、文化等についてはアカデミー推進計画もあり、そちらとの整合を図りながら記載する必要がある。

**○福富委員** 区の計画はお互いオーバーラップしても構わないと思う。都市マスを区民が読んだ際に、文京区が目指している方向性をハード面だけでなく、ソフト面も含めて理解しやすいように記載するのが良い。

**○村木会長** ハードの事項だけではなく、文京区が持っている歴史性等を都市計画の中にも少し入れた方が、地域らしさを出すことができる。関連計画との調整というよりは、書き方そのものをどのようにするかの問題であり、記載の仕方を検討してほしい。

**○谷口副会長** 資料2の3ページについて、現行都市マスの魅力の構成要素では、「居住者」、「就業者」、「来訪者」の3つの視点で整理されており、外からの視点も意識されている。しかし、地域区分の拠点の設定には、内向きの視点しかない。文京区を外から見ると大学等の学術拠点、スポーツ拠点、御茶ノ水の周辺には医療拠点等があり、日本でトップクラスの機能が集積している。その様な来訪者向けの文京区の特徴、強みを示すことができる拠点が現行都市マスの拠点とは別に、オーバーラップした形であるのではないか。

少し違う言い方をすると、各地域に分かれ、それぞれに生活拠点があり、役所が一番真ん

中にあるというのは、地方都市の都市構造であり、文京区には適さないのではないかと。

○**下笠事務局** 拠点については、これまでの都市マスをそのまま継承している。拠点の扱いは今後検討していきたい。また、谷口副会長のご指摘はその通りである。

○**澤井委員** 文京区には、国内でもトップクラスの様々な要素があり、そういった視点が現行都市マスではあまり見られないというご指摘であるが、外から見たときの文京区の特徴・魅力の表現は、現行都市マスの魅力の構成要素以外の部分ではされておらず、今後の重要な検討課題である。

○**福富委員** 都市マスは区民に対して、「文京区のまちをこうしていきます」という説明と同時に、外に対する PR 文書でもある。文京区が目指している方向性を分かりやすく整理した方が、内外に対して良い効果を生むのではないかと。

○**村木会長** 文京区の拠点及び文京区外の拠点が区境付近に多くあり、人は行政界を気にせず移動するため、現行都市マスの拠点と実際の感覚には違いがあるはずである。

どの都市マスも行政区内の計画しか書いていないが、都心区であることを踏まえると、行政界周辺にある拠点をもう少し考慮した方が都市計画ならではの新しい視点が生まれ、地域や人のことを考えた計画になる。

○**下笠事務局** 下町隣接地域や江戸川橋周辺の拠点は隣接区との関係性が深く、それらの拠点についての記載は、隣接区とも調整をしながら検討を進め、文京区だけを考えた都市マスにならないように留意していきたい。

○**村山委員** 地域区分と拠点の位置図は委員から様々な指摘が出ており、修正すべきだと思う。参考資料の「もう少し幹線道路の沿道の商業集積を強調した方が良い」という私の意見も、地域区分と拠点の位置図を修正してほしいという意味でもある。

隣接区との関係性は地域別構想で議論すると思われるが、例えば、湯島三丁目等は台東区との区境に位置し、実際にまちづくりの動きがある。それらを都市マスに記載するのであれば、湯島三丁目周辺を拠点として位置付けるべきである。全体的にマスタープランの内容を詰めていく作業の過程で、地域区分と拠点の位置図は変わっていくと思う。

もう一つは質問であるが、資料 3 の 1 ページ「土地利用の方針の変更・追加の要素」に「脱炭素なまちづくりの誘導」との記載があるが、脱炭素なまちづくりは土地利用だけではなく、交通、緑、住宅等の部門でも深く関わってくる。なぜ土地利用だけに記載があるのか。また、具体的に土地利用部門でどの様な取り組みを想定しているのか。

○**下笠事務局** 脱炭素やエネルギーに関しては、土地利用の部門だけでなく、横断的な取り組みだと思っているが、具体的な取り組みとして、土地利用には当然関係してくるかと考え、

記載している。

**○澤井委員** 脱炭素に関しては、村木会長からも「現行都市マスの特定の部門に組み込む記載の仕方ではなく、新たな部門をつくる等の記載の仕方もある。」とご意見をいただいております、様々な部門に脱炭素に関連する取り組みがあると認識している。今回までの委員からのご意見を踏まえ、各部門の取り組みで記載する場合は記載の仕方を工夫し、横軸的に捉え独立させた形でまとめる場合は整理の仕方でも工夫したい。

**○村山委員** 現行都市マスには新たな視点として、「地球温暖化等への対応」とあり、これが10年たって「脱炭素なまちづくり」に展開してきている。部門別に入る前に脱炭素まちづくり全体の整理をし、各部門で実施すべき取り組みを記載する構成に変えた方が良い。

**○村木会長** 横断ですべき取り組みを各部門に分けて記載すると横断的な要素が分かりにくくなるため、部門別方針の前に横断的な節か章があっても良い。どう整理すれば行政がやるべき取り組みが分かりやすく認識できるかが重要である。

**○福富委員** 例えば「世界に開かれた文京区」、「歴史、文化、学術を大事にする文京区」、「お年寄りを大事にする文京区」等、各部門にまたがる横断的なキャッチフレーズがあり、それを実現するための都市計画部門としての動き方を整理するストーリーだと腑に落ちる。

**○村木会長** まちに関わる全ての要素をまとめた構成にすると今度は総合計画のようになってしまうため、難しい部分である。

現行都市マスの「実現化に向けて」では、推進方策について書かれているが、この間、どのように進捗管理されていたのか。他区では、年毎に評価項目を設け進捗管理する等の例もあり、文京区もどのようにやるか、今回の見直しを完了するまでに検討した方が良い。

他に意見がないようなら、議題2の部門別方針の見直しについて、ご意見をお願いしたい。

**○谷口副会長** 資料3にある各部門の方針図は、現行都市マスの内容であり、今回の見直しにおける、変更・追加の要素が分からない。例えば、道路・交通ネットワークの方針図は交通サービスの低い地域が示されているが、2011年の状況と現在とで変化はあったのか。

**○下笠事務局** 資料3の方針図は、現行都市マスの内容である。コミュニティバスについては、現行都市マス策定時には1路線しかなかったが、現在は3路線に増えており、今後の検討の中でお示ししたい。

**○谷口副会長** 資料1の4ページにある「進捗管理をするのであれば、この時点でもう少し具体的な検討をしていく必要がある。」という意見は、進捗管理の部分を明確に評価しないと「前回改定時と比べこの10年間で何が進み、何が進んでいないため、変更・追加が必要だ」

という実のある議論ができないという指摘である。

**○村木会長** 現況がわからないと、将来的に都市空間がどのようになるか、また、それに対して都市計画としてどのような方策を取っていくかを考えることができず、都市マスに新しい内容が記載できない。「何も変わっていない」、「やったけれども変わらなかった」を明確に示すことが区民の協力を得るという観点でも重要である。

**○村山委員** 自分は良く自転車に乗るが、ここ数年で、自転車レーンの整備が進み自転車の走行環境が非常に良くなったと感じる。これは評価すべきことであり、サイクリストとして、今後も、自転車道のネットワークを拡げてほしいと感じている。

ただ、区民のアンケートでは「歩行者・自転車環境に結構不満が多い」とあり、資料3の4ページにも「歩行・自転車利用の環境整備」と明確に書いていることから、道路・交通ネットワーク方針図に前回改定時からの10年間で整備が進んだ自転車レーンの区間を示しながら、さらにそれを拡張するための方針の検討が必要である。

**○吉田委員** 区では、既に「自転車活用推進計画」を策定しており、国道、都道、区道等について様々な関係機関と協議をしながら自転車走行空間を整備している。国道、都道については区の意見がそのまま通らないこともあるが、少なくとも区道は、自転車の利用環境をどうするか等、検討していく必要があり、今後10年間でそれをどれぐらい進めるかについては、既に作っている計画があるため、データとしてお示しできる。

**○福富委員** この10年間で現行マスタープランに沿って各施策がどれだけ進んだかをリステイングすべきである。各施策の進捗は区民説明会でも必ず聞かれるため、ここまで進んだというものをピンポイントでピン留めしておくべきである。

**○澤井委員** 資料3では、見直しにおける変更・追加の要素（案）を示している。例えば、道路・交通ネットワークの2点目には、「自転車通行空間の整備、シェアサイクルポートの設置促進」とあり、文京区自転車活用推進計画に基づき、それらの整備を進めていくことを示している。このように、前回改定後の10年間で策定・改定された関連計画等が多く、それらをこれから図や文書でお示ししていきたい。方向性としては、ご指摘があった通りの認識を持っており、今後それらの内容を整理し、議論してもらえるようにしていきたい。

**○福本委員** 前回改定時からの進捗と今後10年、20年の目標・ビジョンの図は別になると思う。この2つを整理して説明してもらえると、今まで区がやってくれた取り組み、今後の方向性に対しての理解が深まる。

また、全体の構成に関して、地域別構想から出てくる内容が積み重なり、全体の構成に反映される項目もあると思われる。今後どの様に議論を取りまとめていくかがわかるロードマ

ップのような表を示してもらえると議論している段階が分かりやすい。

**○高橋委員** 現行都市マスでは、部門別方針の7つ目に「魅力を生かすまちづくり方針」とあるが、資料3にはこの部門がない。これは、特に変更・追加がないためか。理由をお聞きしたい。

**○下笠事務局** 現行都市マスでは、魅力を生かすまちづくり方針で、文京区の魅力別に取り組みを整理している。魅力を生かすまちづくり方針の章をどのような扱いとするかについては、現在検討中であり、今回の資料からは除いている。

**○村木会長** 現行都市マスに書かれている内容は文京区の都市をどうしたいかが書かれており、これを間違っていると思う人はそれほどいないはずだ。

しかし、取り組みが非常に多く、今後、10年間で何を積極的に進めるかが分からない。残りの計画期間が10年のため、もう少しプライオリティがあっても良い。読み手は「書いてある取り組みは全てやる」と捉えるため、区として、積極的に進める取り組みがあるのであれば、プライオリティという形で明確にした方が、区民にとっても分かりやすく、庁内調整も進めやすくなるだろう。

**○綾井委員** 資料3の6ページ、基本的考え方の2つ目に「様々な利用者が多面的に利用できる公園づくり」とあるが、具体的に何をするのが分からない。一方で、同ページの方針の構成概要3)緑と水のネットワーク軸の形成の部分には、「ネットワーク軸上の連続的な緑化等」と具体例が入っているためイメージがしやすい。今の話は一例で、「～など」とつけても構わないが、何か具体的な言葉を足してもらえると区民の皆さんも具体的な取り組みをイメージしやすいと思う。

**○福富委員** 総論として文京区をどのようにしていくかを整理した部分が部門別の前にあった方が良い。例えば、「隣接区との連携」、「学術拠点の形成」等のメッセージがあり、そのためにまちづくりをやっていくという起承転結があった方が分かりやすい。

**○村木会長** 全体を通して、ご意見をお願いしたい。

**○一針委員** 現行都市マスの5ページに、人口推計のグラフがある。このグラフの推移を見ると、これから20年から30年で2万人から3万人程度の人口減少が推測される。また、老年人口が増加し、それ以外の年齢層が大きく減少していくため、自転車に乗れない人が多くなる等、まちを取り巻く背景が大きく変わっていく視点も必要である。

**○村木会長** その様な部分については、記載の仕方も含めて検討してほしい。

**○村山委員** 資料3の2ページの土地利用の方針について、区内には、大学のキャンパスが

幾つかあり、いずれも土地利用方針図（用途別区分）では「住宅市街地」に、建築物の高さに関する方針図では「低中層市街地」に位置付けられている。どの大学も機能拡充と同時に、高度化、高度利用が進み、低中層ではなくなっている実態があり、今の土地利用方針が前提にあると大学キャンパスの機能更新ができなくなる等、問題になってくる。まちづくりを検討する際には、マスタープランが前提となるため、様々な議論をしていく際に、いつも土地利用方針が問題になる。

**○下笠事務局** 機能更新の検討を進めている大学も多く、都市マスへの記載の仕方は現時点では申し上げにくく、今後の検討になる。

**○澤井委員** 様々な大学が新たな形で高度利用し、大学としての新しい機能、役割を果たしていく動きを持っていることは十分認識している。高度利用をすることについては、地域全体の理解が必要となり、都市計画的な要素と地域貢献的な要素等を総合的に判断していく必要がある。

土地利用方針図で単純な塗り方では考えられない部分を都市マスの見直しの中でどう盛り込んでいくかは重要な課題だと認識している。

**○福富委員** 様々な大学が「土地の高度利用を図りながら機能更新を図っていきたい」と希望しているように感じている。ハードな項目だけでなく、スタートアップの育成等も含め、まち全体で大学機能を支えるという意思表示をし、「学術機関と連携しながらまちの特徴をさらに発展させる。」等と記載してもらえると大学側も良いのではないかと思う。

**○村山委員** 色を塗り替えるべきだと言っているわけではなく、進め方や検討に当たって配慮すべき論点等が少しずつ整理できれば良いと考えている。

**○澤井委員** 学術機関で高度な施設の集積がみられることは区の魅力の一つとしても既に挙げており、どういった形でそれら生かし、区として発展していけるかは重要なテーマである。単純に高度利用自体が良いといった話でなく、都市としての機能や魅力を向上していくための方向性について記載できれば良いと考えている。

**○前田事務局** 高さの誘導方針については、現行都市マスの 32 ページに「一定規模以上の敷地であり市街地環境の向上に資する場合等は、色塗りで分けた高さの市街地区分とは別に、高さを別途設定できる。」と但し書き的な記載がある。こういった記載を見直すかも含め、今後の検討課題であると認識している。

**○村木会長** 現行都市マスの土地利用方針図（用途別区分）は用途地域と全く同じではないので、これらについてどうしていくのかを協議しながら決めていくのであれば、キャンパスの下の色はなくすという考え方もある。重要な話であり、考えてみた方が良い。



○**高橋委員** 現行都市マスの部門別方針では、部門間で依存関係がある項目がある。例えば、防災まちづくりの避難場所や避難路の部分には公園や道路の要素が入っており、緑と水のまちづくり方針や道路・交通ネットワーク方針にも関わる。部門間でこういった関わりがあるか全体の将来像を示す説明が部門別方針の前にあると、より理解がしやすい。

○**村木会長** 分かりやすくするための資料を付け加えると良いという指摘である。これ以上、ご意見がないため、これで議論を終了とする。事務局より、何かあれば、お願いしたい。

**【事務局より】**

○**下笠事務局** 事務局から3点ある。1点目は、第2回見直し検討協議会の議事録についてである。先般、委員にはメールでお送りして、既に確認していただいているが、もし修正等がある場合1月20日の午後5時までに事務局へメール等で連絡してほしい。もし、修正等がなければ、連絡の必要はない。週明けに決裁終了後決定稿とし、ホームページにアップする。2点目は、現行都市マスの冊子についてである。概要版と本編は、今回席に置いたままとしてほしい。次回以降も今回同様に席に置いておく。3点目は、次回の検討協議会は5月中旬に開催する予定である。日程が決まり次第、早めにお知らせしたい。

○**村木会長** 以上で、第3回都市マス見直し検討協議会を閉会する。